

第2回 明石市観光振興基本構想懇話会 議事要旨

日 時

平成 22 年 10 月 12 日（火） 14:00～

場 所

明石市民会館 第3・4会議室

議事要旨

1 開会

2 協議

- ・事務局より協議事項について資料説明。

（委員）

- ・地理的特徴を活かし、国内外の海峡のまちの首長が集う“世界海峡のまちサミット”を開催するぐらいの気持ちが必要ではないか。神戸、淡路、姫路等と連携して、こうした大きなうねりをつくっていく方がよい。最初は全国の海峡をもつ地域の人たちに集まっていただき、10～15年かけて世界に広げていけばよい。

（会長）

- ・まちの雰囲気づくりや広域連携の取っ掛かりとして活かせるアイデアだ。

（委員）

- ・商店街の抱える課題解決に向けて「どう実行していくか」に頭を悩ませている。現在、中心市街地の活性化に取り組んでいるが、西の地域も含めて全体的に考えていきたい。
- ・関東からの若い女性観光客は神戸に泊まり、最後に明石焼きを食べて帰るというパターンが多く、神戸との連携が必要だと感じている。バスで淡路に行く観光客も、最後に明石に立ち寄り、車中でバスガイドが紹介した店に行って、魚の干物や練り物を買う人が多い。バスガイドから情報提供がない店は、店頭で商品説明をしようとしても観光客、特に高齢者に警戒されてしまう。
- ・城下町の機能、街道筋の面影はぜひ残していきたい。加えて、商店街は楽しさが一番大切なので、魚の棚だけでなく、各々の商店街を巡るのが楽しいと思ってもらえるようにしていくべきだし、かつて老舗の店があって今は無い場合は、こんな店があったと紹介するだけでもいいのではないか。
- ・海峡の話が出たが、明石には柿本神社もあるので、“明石海峡、今を詠う全国大会”などを開催し、歴史的な強みも加えてアピールしてはどうか。

（会長）

- ・バスの車中での誘導は、着地型として、どう情報発信していくかという課題につながっている。

(委員)

- ・質問が2点ある。①一般的な計画に盛り込まれる、観光客数やその増加率など数値的な目標にふれていないのはなぜか、また、象徴的なキャッチコピーがないのはなぜか。②誰に明石に来てもらいたいのかに、ふれていないのはなぜか。
- ・意見として2つある。①言葉のわかりやすさが大切だと思う。例えば“持続可能な～”“マーケット＝コミュニケーション”などは、もっとわかりやすい言葉に変えるべきではないか。②体験型観光の目標として滞在時間の延長をあげているが、新しい資源を発掘し新しい魅力をPRすることも大きな目標の1つではないか。

(事務局)

- ・質問①について。数値的には現状維持もしくは増加をめざし、滞在時間を延ばすことを目標にしているが、今回の計画は財政上の理由からハード整備について言及していないので、試算しにくい面がある。また、キャッチコピーは人によって受け取るイメージが異なるので、まずは土台をつかってイメージが固まってきたら考えていきたいと思っている。
- ・質問②について。ツイッター、ブログなど新しいメディアも活用しながら若い人にもアピールしたいし、テレビや雑誌などを活用してマスに向けてもそれぞれPRしていきたい。ターゲットは「近隣の主要都市に住む老若男女」として、エリア的に絞り込む方向を考えているため、現段階では、特に年代別などのターゲットを明確にしなかった。

(委員)

- ・現状ではこれでよいが、特に誰をターゲットとするかをいずれは意識していく必要がある。

(会長)

- ・効果検証のためには過去との比較が必要なので、経済的波及効果も含めた数値目標を入れておいた方がよい。アクションプランに入れてもよい。

(委員)

- ・海峡サミットの案には賛成だ。明石においては、軟式野球の全国大会やプラモデル甲子園などが開催されている。
- ・本町通り商店街は、せっかく昭和の趣があるのにシャッター通りになっていて、気になっている。神戸では、廃校になった北野小学校を利用して商業施設をつくり、評判になっている。本町通にもいろいろな商業施設をまとめて入れてはどうか。若い人が集まれるような、お洒落で明るいまちにすることも重要だ。また、高齢者大の最終目的は地域への還元なので、彼らを本町通りに呼び活動させることもできるのではないか。

(会長)

- ・国土交通省の「社会資本整備総合交付金」制度は、地方公共団体の政策課題の解決にあたり、ハード、ソフト両面で利用できる。ソフト面の計画を推進する上で必要なハード整備については提言をしてもよいのではないか。

(委員)

- ・明石市の観光について、パンフレットやホームページから情報を入手しようとしても、あまり魅力的な情報発信がなされていない。ヴィジュアルは重要であり、若い人は iPad 等を活用しているので、web 上の写真等を魅力あるものにして、内容も充実させる必要がある。

(委員)

- ・明石観光協会のホームページへのアクセス数は年間 15 万件である。
- ・先ほど海峡の話が出ていたが、20 年前の第 3 次長期総合計画には“海峡公園都市”、10 年前の第 4 次長期総合計画には“海峡交流都市”のキャッチフレーズが使用されていた。“海峡”はキーワードのひとつになると思う。
- ・観光の施策にはストーリー性が必要である。例えば、明石城の櫓公開には日本全国から年間 5 万人の人が訪れる。明石城が「日本 100 名城 ((財)日本城郭協会)」に入っているため、個々に全国の城を巡っている人が来ているようだ。

(会長)

- ・仕掛けや仕組みづくりが大切だというご意見をいただいた。ただし、黒川温泉（熊本県）で成功した「入湯手形」が下呂温泉（岐阜県）では手形利用者が有名旅館に集中し失敗したように、どこでも同じ仕組みが使えるとは限らない。簡単に真似をせず、地域でつくっていくべきものだ。

(委員)

- ・先ほど、長期総合計画で“海峡都市”のフレーズが長年使われていたとお聞きしたが、一般の明石市民には知られていないと思う。知られていないならば、“海峡サミット”の前に、まず、明石市民に、その意味や意義を浸透させるべきではないか。
- ・海岸の利用については上手な使い分けを検討すべきだ。若い人が遊べて花火もできる場所を、時間や料金なども決めて、すみ分けていけばよい。漁業をテーマにした体験は、市の西部で地引き網や潮干狩りを個々の業者が行っているが、全体の仕組みとして行うならば、整備できた砂浜にアサリを計画的に撒いて増やすなどの方法はあるだろう。

(会長)

- ・参考資料①をみると、「明石の人が明石をよく知らない」ことについては、中学生がボランティアガイドを行うことで地域への誇りと愛着心を強めた新潟県佐渡市の例が、「個々に取り組みはあるが、誰が何をしているかわかりにくい」ことについては、特産品を販売するために観光事業を強化したプラットフォーム（千葉県南房総市）の例が、「本町通り商店街の活性化」については、空き店舗活用やビジネス創出につながるプラットフォーム（大分県別府市）の例が参考になるのではないか。

(委員)

- ・観光振興に関しては、これまでも資源を上手く活用できていないとの指摘を受けてきた。16 kmの海岸線があるが整備も必要であるし、港がすぐそばにあるのに近寄れない点もネックだ。大蔵海岸

や松江海岸は大阪から多くの人々が訪れている。

- ・ 中心市街地においてはコンパクトシティづくりを考えている。また、明石は魚のまちだが、“魚を楽しめるまち”にしたいと数々のイベントも実施している。

(委員)

- ・ 秋の連休中、旅館は満室であったが、宿泊客に聞いてみると、明石の何かを見に来た人は少ない。旅館にはエステと美味しい料理が求められている。
- ・ 神戸市長田区の「鉄人 28 号」のモニュメントは象徴的で大きな影響力がある。明石の象徴的な存在は天文科学館だと思うが、どちらかといえば教育施設であり、観光における有効利用は十分ではない。もし、名前が“銀河鉄道天文館”とでもなればイメージが変わるかもしれない。愛媛県松山市には「坂の上の雲」や「伊丹十三」の記念館がある。昭和は今や歴史上の時代となったが、現代の若い人も知っていて共感できるもの（明石の場合は天文）に未来のエッセンスを入れればよいと思う。
- ・ 毎年、時の記念日に配布される子午線通過記念証を受け取ったことをきっかけに、明石のまちに愛着を感じて、100 年前に建てられた子午線標識を美しく保つ活動をしているボランティアの人たちがいる。そのおかげで人々が訪れてくれていると思う。

(会長)

- ・ 昭和の時代は 20 年前のものとなり、観光の価値を持つようになった。

(副会長)

- ・ 3 点、話をさせていただきたい。1 つ目は、施策まで踏み込んで議論するためにもブレインストーミング的に話し合う場を設けてはどうかということ。2 つ目は、ターゲット設定には資源の整理も必要なので、どういう形で明石を訪れ、どういう行動をしてもらいたいのかまで議論が必要ではないかということ。3 つ目は、地元を知る活動は重要なので、アンケートだけでなく、学生を活用した追跡調査をしてはどうかということだ。
- ・ 特に 3 つ目に関しては、大学はフィールドワークの場を求めており、地域は若者のニーズを知りたいので、お互いの期待が合致すると思う。大学生に GPS 付き携帯電話を持たせて、気になる場所の写真を撮らせれば、彼らの興味や関心事がわかり、外から見た新しい気づきがあるのではないかと。学生だけでなく、市民や商業関係者も参加し、自慢の場所を案内して回る「まち自慢歩き」などをしてもよい。
- ・ 実は、今日、明石のまち歩きをするために数名の学生を連れてきた。事前に明石を調べさせたが、ホームページ等でみる写真等はインパクトに欠けると皆が感じた。“海峡のまち”を謳うならそれを感覚的に理解させるべく、例えば Web 上で、駅から海峡までの道のを 3D で表現するなどの工夫がいる。最近ではカメラ好きの人が増え、いわゆる「カメラ女子」もいて、素人もそこそこの写真を撮る。現地でワクワクできることをヴィジュアルで伝え、人に語らせる情報発信が必要だ。大学生は雑誌やテレビも意外に見ているが、何か調べる際はインターネットの情報を重視する。大学生の生の声を聞いて情報の集約ができれば、その出し方はいろいろあると思う。ちなみに、今日、彼らは明石のセリを喜んで見ていた。

(会長)

- ・次回は推進体制と基本施策について議論したい。本構想の内容を誰が担い推進していくのか、誰に提供したいのか、誰が何をどんな価値をもってどのように提供していくのか、などを考えたい。その他にご意見はないか。

(委員)

- ・人丸花壇の近くで30～40歳代の人々が、手作りの作品を売る雑貨店を立ち上げている。話を聞くと、明石が気に入って神戸から移転してきたそうだ。観光客だけでなく、このような事業者も誘致すべきだと思う。

3 閉会

(事務局)

- ・次回の開催は、11月の予定である。

以上